

小 1 年

ねん	く
つ	う
じ	し
り	た
ゆ	へ

滋賀県書教育研究会会長賞

辻里結

いちじいちじ、なまえまでいねい
です。マスいっぱいのにのびのびと
おおきく、すっきりとしたせんでか
けています。

小 1 年

ながら	く
ねん	た
は	も
やし	の
かほ	

京都新聞賞

林花帆

マスにあわせて、おおきくどうど
うとかきあげました。なまえまでお
なじちょうしでいねいにまとめて
います。

小 1 年

まきの	く
ひがし	た
ー	し
もり	と
た	り
たける	

大津市教育委員会教育長賞

森田竹琉

いつものれんしゅうがいかにされて
います。えんぴつのこさもうつくし
くすっきりかきあげました。すばら
しいです。

幼稚園

く	う
ま	き
か	く
み	た
ひ	へ
よ	
か	

京都新聞賞

神子日葉花

すっきりしたかきぶりでのびのび
となまえまでかくことができました。
じのかたちもとてもきれいです。

小 2 年

ぎ	て	
生	川	そ
二	を	う
年	わ	の
	た	上
	つ	に
	た	の
	。	っ

滋賀県書教育研究会会長賞

藤川莉愛

やさしく、しっかり一本一本でい
ねいに書けています。すっきりして
います。

小 2 年

ふ	き	
ぞ	れ	え
く	い	ん
二	に	び
年	け	つ
	ず	の
	る	先
	。	を

京都新聞賞

羽村亮子

力の入れ方が、一ていであん心し
て見ていられます。うまいです。

小 2 年

守	は	
山	く	天
二	ち	の
年	よ	川
	う	を
	ざ	わ
	。	た
		る

滋賀県教育委員会教育長賞

道木成美

一本一本のせんが、とてもうつく
しく、あんていして書けました。

小 1 年

ち	い	
ゅう	い	
ず	る	
ね	か	
ん	バ	
に	ミ	
し		
む		
ら		
な		
お		

滋賀県書道協会賞

西村奈央

いっほんいっほんころをこめて、
ていねいにかいています。なまえの
ところもたくさんのじをちゃんと
いれました。

小 3 年

長	の	
南	よ	午
三	う	前
年	い	中
田	を	
中	す	音
友	る	楽
づ		会

滋賀県知事賞

田中友都

筆圧が一定で、好感度大。字形も整っていて、三年生でこんなに落ちついた作品が書けるとはすばらしい。

小 2 年

し	き	
が	れ	え
ら	い	ん
き	に	ぴ
二	け	つ
年	ず	の
岩	る	先
な		を
が		
み		
の		
り		

滋賀県書道協会賞

岩永みのり

すべてのもじが、とてもていねいに書かれていて、うれしくなります。

小 2 年

あ	あ	
ど	じ	雨
二	さ	に
年	い	ぬ
青	の	れ
木	花	る
は		青
る		い
ま		

滋賀県書道協会賞

青木陽真

むずかしいかんじも、りっぱに書けました。とくに「年」はすばらしい。

小 2 年

き		
れ	え	
い	ん	
に	ぴ	
け	つ	
ず	の	
る	先	
	を	

滋賀県書道教育研究会賞

櫻庭心

一字一字とても、ていねいにしっかり書けています。りっぱです。

小 3 年

矢	か	
ぐ	み	ピ
ら	な	カ
三	り	ッ
年	の	ゴ
ま	光	ロ
え	と	ゴ
田	音	ロ
り		
ょう		
太		

滋賀県書道協会賞

前田瞭太

カタカナ、平かな、漢字と字の大きさを考え、スッキリと読みやすく書けています。

小 3 年

あ	く	
い	歩	友
三	き	だ
年	ま	ち
し	し	と
ま	た	な
村		か
ゆ		よ
え		
い		

滋賀県書道教育研究会賞

島村優吾

中心をそろえ、心をこめて書いている様子が伝わってきます。特に二行目がすばらしい。

小 3 年

じ		
ょう	小	木
南	鳥	い
三	の	ち
年	な	こ
松	き	の
か	声	花
ん		
な		

滋賀県書道教育研究会賞

松環奈

一字一字心をこめてていねい。右上がりの横線の角度もそろっていて、お勉強の成果がでています。

小 3 年

こ		
ま	そ	な
つ	よ	の
三	風	花
年	が	ば
き	ふ	た
た	く	け
ざ		
わ		
こ		
こ		
ろ		

京都新聞賞

北澤虹心

ひらがなの書きぶりが、漢字にまけずどうどうとして終りまで気をぬくことなく書けています。

小 4 年

坂田 四年 岡田 咲月	白	
	い	大
	ひ	空
	こ	に
	う	く
	き	つ
	雲	き
	。	り

滋賀県教育委員会教育長賞

岡田 咲月

すっきりとした美しい線で名前まで落着いて書けています。文字の形も美しいです。

小 3 年

金 ^ぜ 三年 門田 涼香		
	小	木
	鳥	い
	の	ち
	な	ご
	き	の
	声	花

滋賀県書道協会賞

門田 涼香

押さえすぎず、軽すぎず、しっかりしたタッチで、マス目にどうと書いています。

小 3 年

甲二三年 神山 けん図		
	青	サ
	い	ツ
	空	カ
	た	ー
	か	大
	く	会

滋賀県書道協会賞

神山 拳図

直線的な線がキビキビとしています。名前の最後まで気をぬかない書き方はすばらしい。

小 3 年

本じょう 三年 田い中 もも		
	小	あ
	犬	お
	と	ば
	さ	の
	ん	五
	ぽ	月

滋賀県書道協会賞

田井中 萌々

先の細い鉛筆のようですが、おさえすぎずやさしいタッチで書けスッキリしてさわやかです。

小 4 年

玉川 四年 中川 かのん	は	
	心	幸
	の	せ
	中	の
	に	青
	住	い
	む	小
	。	鳥

滋賀県書道教育研究会賞

中川 果音

きっぱりと引いた直線にさわやかさを感じます。文字の形もよく注意して書かれています。

小 4 年

安曇 四年 秋田 みく	山	
	や	深
		く
	い	な
	ね	っ
	の	て
	緑	き
		た

滋賀県書道教育研究会賞

秋田 真来

線の方角や間隔に気をつけながら丁寧に書かれています。漢字とひらがなの大きさもちょうどよいです。

小 4 年

安土 四年 西川 心菜	白	
	い	大
	ひ	空
	こ	の
	う	か
	き	な
	雲	た
		に

京都 新聞賞

西川 心菜

美しい線で、とめ、はね、はらいに十分な注意を払って書けているのでとても生き生きとしています。

小 4 年

能北 四年 青みね ゆい	お	い	
	な	海	く
	じ	や	ら
	こ	山	し
	と	を	を
	だ	大	高
	と	切	め
	思	に	る
い	す	心	
ま	る	と	
す	心	美	
。	と	し	
	は		

大津市教育委員会教育長賞

青峰 惟

漢字とひらがながよく調和し、文章の流れを感じるすばらしい作品です。

小 5 年

安曇	上、	と	
五	最	し	バ
年	も	て	ラ
岡	大	、	は
本	切	ヨ	、
里	な	ー	愛
佳	花	ロ	と
	で	ッ	美
	あ	パ	を
	る	の	表
	。	文	す
		化	も
		史	の

滋賀県教育委員会教育長賞

岡本里佳

それぞれ文字の大きさを考えて、バランス良く最後まで整って書けています。

小 4 年

は	
心	幸
の	せ
中	の
に	青
住	い
む	小
	鳥

滋賀県書道協会賞

平木沙歩

一本一本の線の方向や長さ気に気をつけて集中して書けています。作品に真剣に向き合う姿が目に見えます。

小 4 年

な	
さ	雨
ん	の
歩	日
に	
行	大
く	す
	き

滋賀県書道協会賞

近藤萌々菜

肩の余分な力が抜けて楽に書けています。学校名や名前にも余裕を感じます。

小 4 年

は	
心	幸
の	せ
中	の
に	青
住	い
む	小
	鳥

滋賀県書道協会賞

藤原茉優

とてもスッキリとした線で書かれています。一つ一つの点や線の方向や長さによく注意して書けました。

小 5 年

マ			
西	は	い	句
五	は	句	は
年	五	・	七
	七	・	五
	五	の	十
	十	七	

滋賀県書道教育研究会賞

杉島果歩

名前の最後まで丁寧に落ち着いて書き、全体にバランス良く書けています。

小 5 年

マ			
モ	昔	から	伝
東	え	ら	れ
五	た	技	術
	や	方	

滋賀県書道教育研究会賞

福井大吉

多字数の文を中心を良く整え、最後まで調子良く書けています。

小 5 年

安			
土	が	た	百
五	を	年	後
年	想	像	の
	す	町	の
	る	の	す

京都新聞賞

野村真央

最後まで筆圧が整いとてもきれいです。はらいの線ものびのび書けています。

小 5 年

長			
等	見	学	兄
五	に	弟	で
年	参	加	町
	し	工	場
	た	の	

大津市教育委員会教育長賞

土井優奈

横画が良く揃い、自信を持って書けていて清々しい作品になりました。

小 6 年

葉山	か	
六年	た	百
立岡	を	年
英恋	想	後
	像	の
	す	町
	る	の
		す

京都新聞賞

立岡英恋

伸びやかな美しい線で文字の大小や形に気を配って書ききりました。自信を持って書けています。

小 6 年

旭北	変	よ	
六年	化	く	何
高木	し	見	気
笑梨子	て	る	な
	い	と	い
	る	季	道
	の	節	ば
	が	と	た
	分	共	の
	か	に	風
	る	様	景
		々	も
		に	

滋賀県知事賞

高木笑梨子

ひらがなと漢字がよく調和し、右上がりの角度や筆圧も一貫して美しくまとめられた秀作です。

小 5 年

古保利	シ	そ	
五年	が	わ	知
岩さき	リ	れ	リ
さ矢	に	て	合
	出		い
	か	わ	の
	け	た	か
	ま	し	り
	し	は	ゅ
	た		う
		イ	と
		ノ	に
		シ	さ

滋賀県書道協会賞

岩崎紗矢

少し漢字が少ない文ですが、ひらがなを自分のものとしてきれいに書けています。

小 5 年

能南	り	ま	
五年	、	れ	古
西堀	神	た	代
三玖	話	星	メ
	と	座	ソ
	結	は	ポ
	び	ギ	タ
	つ	リ	ミ
	い	シ	ア
	た	ャ	地
		に	方
		伝	で
		わ	生

滋賀県書道協会賞

西堀三玖

文字をきれいに書くきまりを身につけていますね。字形が整い美しいです。

小 6 年

蒲生	を	
西	持	最
六年	ち	高
向井	行	学
愛佳	動	年
	す	
	る	責
		任

滋賀県書道協会賞

向井愛佳

堂々とした動きで、ていねいに形良く書けています。名前まで気を抜かずしっかりと書きました。

小 6 年

城西	を	い	
六年	作	。	夏
雁瀬	り	お	の
萌衣	、	い	桜
	暑	し	な
	さを	げ	み
	わす	っ	木
	れさ	た	も
	せる	葉	と
		が	て
		か	も
		げ	い
		り	

滋賀県書道協会賞

雁瀬萌衣

行の中心をしっかりと通し、ていねいに書けました。右上がりを抑えたことで気品にあふれています。

小 6 年

亀山	向	
六年	か	最
田中	っ	高
優美	て	学
	前	年
	進	
	す	夢
	る	に

滋賀県書道教育研究会賞

田中優美

右上がりの角度が整い、美しく伸びやかな線でまとめられた最高学年らしい佳作です。

小 6 年

新旭南	上	と	
六年	、	し	バ
原田	最	て	ラ
珠宇	も		は
	大	ヨ	
	切	ー	愛
	な	ロ	と
	花	ッ	美
	で	パ	を
	あ	の	表
	る	文	す
		化	も
		史	の

滋賀県書道教育研究会賞

原田珠宇

スッキリとした直線的な字形できれいに調和しています。落ち着きのある作品です。

中 1 年

マジョラム ステビア
オレガノ カルダモン
打出一年 岩崎琴葉

滋賀県書教育研究会長賞

岩崎琴葉

運筆の基本がしっかりとできていて美しい線質で書けました。字形も正確です。

中 1 年

初志 研究 独想 主張
朝礼 集合 有無 信頼
安曇川 一年 鈴木友香

京都新聞賞

鈴木友香

最後まで気を抜かず、線と余白を意識して書けています。やや筆圧が強いので、次は注意して下さい。

中 1 年

大きな夢 自立の精神
熱い意欲 豊かな知識
彦根西 一年 瀧波はるか

大津市教育委員会教育長賞

瀧波はるか

一点一画をきっちりと積み上げた構築性が素晴らしい。線質に張りが生まれるとさらに良くなるでしょう。

小 6 年

貴生川 六年 青山咲帆	では人々に愛されていきます。	あらわすとされ、ヨロツパ	アカシアの花は「友情」を
-------------	----------------	--------------	--------------

滋賀県書道協会賞

青山咲帆

適切な筆圧でスッキリと美しい線で形良く書けました。文字の大きさも整っています。

中 2 年

少年老い易く学成り難し
一寸の光陰軽んずべからず
老上二年 亀井優

滋賀県書教育研究会長賞

亀井優

とても丁寧な書きぶりです。線質も軽くて美しい。やや行の通りが気になります。全体を見通して書くようにして下さい。

中 2 年

東風 春雲 栄光 永遠
発芽 開花 成長 希望
栗東二年 安富梨佳

京都新聞賞

安富梨佳

行書のリズムを上手につかんで軽快な表現となりました。ここに柔らかさが加わるとさらに良くなるでしょう。

中 2 年

野球の熱戦 湖を周航
山頂に花畑 誠実な道
県守中二年 渋谷樺愛

滋賀県教育委員会教育長賞

渋谷樺愛

確実に線を積み上げ、隙のない一貫した書きぶりが素晴らしい。悠々とした作風に魅力を感じます。

中 1 年

光輝 金銀 言語 日時
湖水 新緑 行動 樹海
栗東一年 田島実乃里

滋賀県書道協会賞

田島実乃里

楷書らしいきっちりとした書きぶりを評価しました。字形にやや不安定なところが見られるので次の課題にして下さい。

中 3 年

大きな夢 自立の精神
強い信念 豊かな知識
立命館守山中学 三年 西山 碧

滋賀県書道協会賞

西山 碧

確実に、かつリズムに乗って最後まで一貫して書くことができました。確かな骨格が素晴らしいと思います。

中 3 年

親譲りの無鉄砲で子供の時から損ばかりしている。小学校にいる時分学校の二階から飛び降りて一週間ほど腰を抜かしたことがある。
長西 三年 鈴木理央

京都新聞賞

鈴木理央

自分のリズムや書きぶりを既につかんでいて、気持ちよく制作された作品です。

中 3 年

メスは激怒した。必ずかの邪智暴虐の王を除かなければならぬと決意した。メスには政治がわからぬ。メスは村の牧人である。
高月三年 片山沙郎

滋賀県知事賞

片山沙郎

軽く大らかな書きぶり。中三とは思えない完成された作品に唖りました。脱帽の一言です。

中 2 年

初志 研究 独想 主張
朝礼 集合 有無 信頼
立守 二年 田中亜弥

滋賀県書道協会賞

田中亜弥

切れのある線質でメリハリのついた書きぶりです。もう少し長いリズムで行書が書けるとさらに美しさが増すでしょう。

高 1 年

夢の球場 仲間の声援
精神統一 努力と友情
守山北高校 一年 岡本理緒

大津市教育委員会教育長賞

岡本理緒

大きな文字を堂々と自信を持って書かれた秀作です。

高 1 年

光輝 金銀 言語 日時
湖水 新緑 行動 樹海
立守 一年 田中ひかる

滋賀県教育委員会教育長賞

田中ひかる

切れ味ある澄みきった線質でゆったり、大きな動きで書けました。

中 3 年

梅雨 前線 金銀 言語
夏季 木陰 時鳥 雲海
南郷 中三年 福林愛理

滋賀県書道協会賞

福林愛理

筆脈が美しく通り、行書の運筆を完全に手の内にした作品です。字形も横幅があり、どっしりと安定しています。

中 3 年

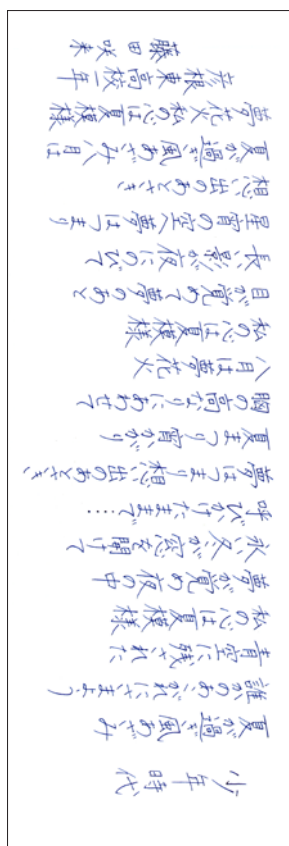
吾輩は猫である。名前はまだ無い。どこで生まれたかと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いて居た事だけは記憶して居る。
夏目漱石、吾輩は猫であるより長浜南中三年中川穂南

滋賀県書道協会賞

中川穂南

速書きのきびきびしたリズムで長文を一気に書き上げています。長年の練習の成果を感じる秀作です。

高 1 年

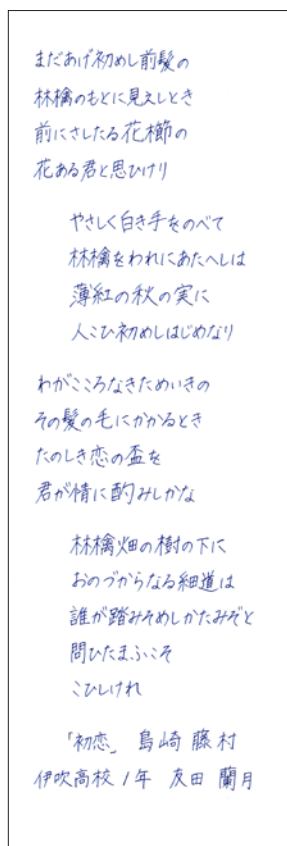


のびやかな楷書作品で詩の風景が浮かぶさわやかな作品です。

滋賀県書教育研究会長賞

友 田 蘭 月

高 1 年

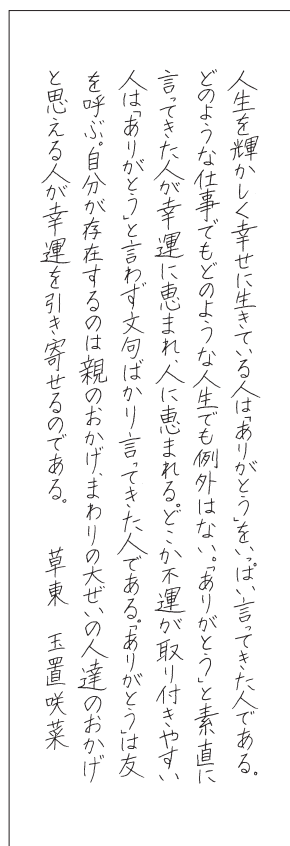


美しい線質の作品です。特に右と左の白のとり方が効果的で生き生きとしています。

滋賀県書教育研究会長賞

玉 置 咲 菜

高 1 年

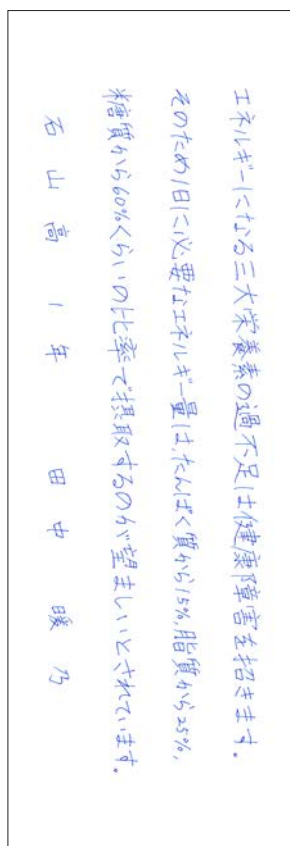


一字一字丁寧に漢字をやや大きく、ひらがなを少し小さくバランス良く書けました。

滋賀県書教育研究会長賞

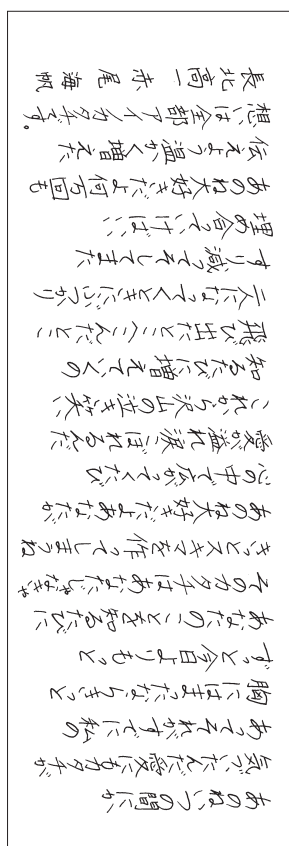
田 中 暖 乃

高 1 年



落ち着いて一文字一文字よく考えて書いています。美しく整っています。

高 1 年

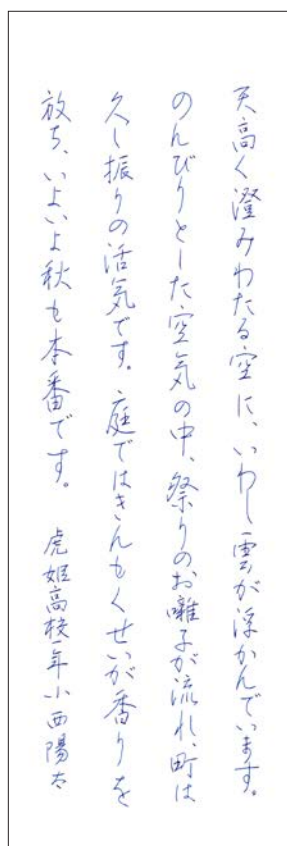


現代的な詩文を自分独自の世界、リズムを作り最後まで一貫しています。

滋賀県書道協会賞

小 西 陽 太

高 1 年

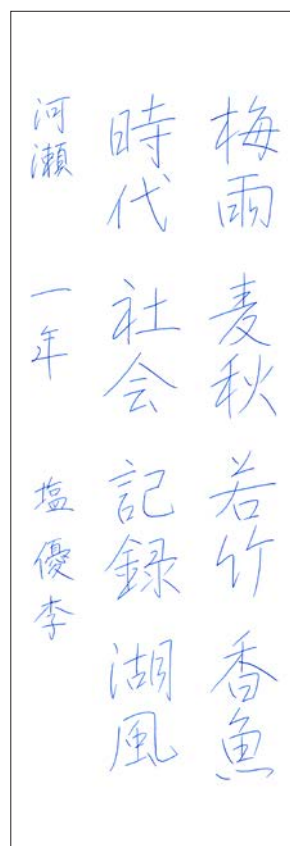


スッキリと簡潔にまとめた行書作品で円運動が小気味良いリズムとあって響いてきます。

滋賀県書道協会賞

塩 優 李

高 1 年

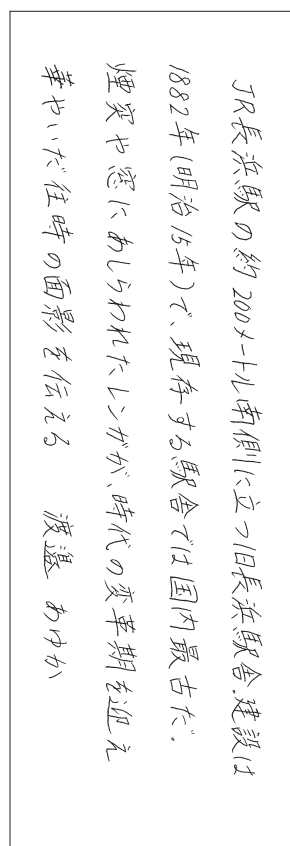


行書の特徴をしっかりとなえ、ゆったりと大らかに気持ちよく、書けました。

滋賀県書道協会賞

渡 漣 あゆか

高 1 年



楷書の横書き。右への流れを考えリズムカルに、又のびのびと書けました。

初春令月氣淑風和梅披
鏡前之粉蘭薰珮後之香

新元号「令和」。払いやハネを大きく表現、令和が平和で穏やかな時代でありますようにと伝わってきます。

言語 性格 個性 尊重
校舎 幸福 花鳥風月

玉川高校 一年 松下 絢音

楷書の結構をわがものとして、美しく、きっちり書けました。

東京五輪会・パリンピックに向け、参加国・地域の事前合宿を受け入れたリ、文化交流を展開したリする「ホストタウン」の取組組みカで各地で進んでいる。

速書きのような軽いタッチで書き進み、字間、行間を広く取りのびやかです。

水高一年田中捺付季

文字の結構をよく考えて書かれ
各々の熟語が美しく整っています。

わたしたちの日々の生活の中には、さまざまな出会いがある。人との出会いもあるし、ものとの出会いもある。新聞や雑誌、テレビなどで新しい知識を得るのも出会いであるし、書物や音楽、絵画などによって心を揺さぶられるのも出会いである。

虎姫高校二年 田 濃 柚 菜

軽くのびやかな線で生き生きと書き切っています。漢字と平仮名もよく調和しています。

つれづれなるまゝに、日暮し、硯にむかひて、心に
うたりゆくやなし事を、そはかとなく書き
つれば、あやしいものくるほけれ。
彦根東亭 一七年中井楓乃音

行書の動きを自分のものとして流麗に、校名、学年、氏名まで一貫しています。

京都にわらんやと云う有名な料理屋があつて、この家は近頃まで客間に電燈をもせず古風な燭台を使うのが名物になつて、だが、今年の春久しぶりに行つてみると、いつの間にか行燈式の電燈を使うようになってゐる。いつちこつしたかと聞くと、去年からこれにしましたらうそくの灯ではあまり暗すぎると仰るからお客様が多うもので、やはり明るく、燃えど、こゝろなくう云う風に致しました。がやはり音のままの方がよいと仰し、るお方は、燭台をもつ参りますと云うで、折角それをたのしみに來たのであるから、燭台に替へて貰つたが、その時松がかんじたのは、日本の漆器の美しさで、さう云うばんやりとした薄明りの中に置いてこそ始めて、本当に發揮されると云うことであつた。その晩のゆりゆりとまたたき、陰にある膳や櫈を視詰めてゐると……東大津高校一年 市川 詩

多字数作品ですが文字の大小の変化に富み、行間が美しい作品です。

ちばはう世の中
 夢を連れて繰り返した
 湯気は世に生はのこす
 鵲の歌声も
 線路風の話声も
 すべてはまろしのメロ
 涙零れぬ音は
 咲いた花が弾く雨音
 哀しみに青空を
 つく日々の道の先を
 塞ぐ影にアイエと
 師の音で歌を歌おう
 すべて越えて輕音け
 つく日々を奏でる人
 すべて越えて届け
 おほよう真夜中
 遠しよとのダンスホテ
 笑顏の裏側の景色
 蝕りで泣く声も
 嘆の下の叫び声も
 すべては笑われる景色
 星野源アイエとより
 八日市高校二年山本夏樹

行頭を揃えた横書きが美しいです。下部の余白の取り方がリズムを感じさせます。

大津市長賞

田濃柚菜

滋賀県書道協会賞

中井楓乃音

滋賀県書道協会賞

市川詩

滋賀県書道協会賞

山本真瑚

高 2 年

滋賀県書道協会賞

多賀 有彩花

秦の当初の公式文字は、始皇帝が宰相の李斯に命じて列国の文字を整理統一して制定させた小篆と呼ばれ、花重で威厳を帯びた篆書であった。しかし統一した国家を治めるのに要する多くの文書を複鋳な篆書で処理することは難しかったと見えて、急速に簡略化が進み、緑の圓線化や字画の思い切った簡素化が行われて、同じ秦代に小篆に統一した隷書も出現せしに至った。 伊吹高校 二年 多賀有彩花

無理のない自然な書きぶりで流れを感じて書き切っています。見事に紙面にびったりおさめました。

高 2 年

滋賀県書道協会賞

秋山 真衣

いまは昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまうりて竹を取りつよづの事に使ひけり。名をば、サカキの造となむいけり。その竹の中にもと光る竹なむ一筋ありける。あやがうて寄りて見るに筒の中よりなり。それを見れば、三すばかりなる人、いとうづ——うてゐたり。 考根東高二年 秋山 真衣

一貫性のあるゆったりとしたリズムで流れるように書き上げました。行もよく通っています。

高 2 年

滋賀県書教育研究会賞

坂口 遥

流れる季節の真ん中で
ふと日の長さを感じます
せわしく過ぎる日々の中に
私とあなたで夢を描く

3月の風に想いをのせて
桜のつぼみは春へとつづきます

溢れ出す光の粒が
少しずつ朝を暖めます
大きなあくびをした後に
少し照れてるあなたの横で

新たな世界の入り口に立ち
気づいたとは人じゃないでと

瞳を閉じればあなたが
まぶたの裏にいることで
どれほど強くなれたでしょう
あなたにとって私もそうであらう

レミオロメン「3月9日」より
彦根総合高2年 坂口 遥

横書きで軽やかに、リズムを感じて書き切りました。余白をうまくとり紙面構成よくおさめました。

高 2 年

京都新聞賞

檜原優衣

五月雨の降りのこしてや光堂
涼しさを風に残して晴れにけり
水ふんで草で足ふく夏野かな
守山北高校 二年 檜原優衣
来山 乙由 漱石

美しい楷書で一字一字でいねいに気持ちを込めました。俳句の情感がよく伝わってきます。

一 般

滋賀県知事賞

崎山 栄子

雪が溶けて僕たちは春を知る同じとただ繰り返す喋る笑う恋をする僕たちはさよならするカメラの中でほら夢のような物語が始まる分かれあえやしないことだけを分かりあうや暗い夜に痛いほど目を閉じた僕らでも今は平気で得意技のキザな言葉ですぐに逃げ出すのさ、 全ての言葉はさよならより 浩吉 崎山 栄子

基本を忠実に守った確かな運筆に加え字の中の白を多く取って、作品全体が優しく温かな雰囲気包まれている。

高 3 年

滋賀県書教育研究会賞

小口 紗季

涙と共にパンを食べた人でなければ人生の味は分からない。
渴しても盗泉の水を飲まず。熱くとも患木の蔭に休まず。
苦んで強くなることと辛いことに熱高なことかを知られ。
彦根総合高校 3年 小口 紗季

ゆっくりとていねいに横の流れに気遣いながら書けている。字間や行の配置も考えられている。

高 3 年

京都新聞賞

堀 真来茄

「さういふ友」高村光太郎
黙ってゐても心に通じる
いい悪いも両手に持つ
やういふ友を持つのはいい。
少しは似た無精ひげと見れば
東京考へ話をきいたり
山へ木魂へ話をしたり
ふところから本を出したり
そんな話をあんなに足す
あの天文学がじりじり進む
どういふ軌道が真実か
どういふ現象がペンタゴンか
どういふ数値が精確か
無口に燃える学問を
さういふ友に置いて
さういふ友が満ちればいい。
この世にいて自分自身が
さういふ友であればいい。
七里すばい、やぐさの思は
この頭から断絶してくれ
伊吹高校 3年 堀 真来茄

書いている姿が思い浮かぶ様です。横の流れも美しく、一貫した書きぶりで書かれています。

高 3 年

滋賀県知事賞

小西 晴奈

ずっと一緒にいた二人で歩いた本道、二に分かれて別々の方歩んでく。寂しげであふれた胸かかえて今にも泣き出しそうな空見上げてあなたを想った。冷えた手を一人で温める日々、君の温もり恋しくて恋しくて、どれだけ電話で好きと言われた君によりかかる事はできない。涙をぬぐった。本当は最初からどこかで君を好きになると僕は気づいて、いたんだろう。
守山北高校 三年 小西 晴奈

始めから終りまで一貫した書きぶりでていねいに書けている。漢字平仮名ともに基本に忠実で美しい作品。

— 般

音車は猫である。名前はまた無くて生まれたか、顔と見方がつかぬ。何でも薄暗いしめやかな所で「ヤーヤー泣いてる事だけは記憶」している。音車はとて始めて人間というものを見た。然もあさう聞くとはそれは書生とて人間中では一番偉いと思わなかつた。但彼の堂にのせられすと持ち上げられた時、何だかフワフワした感じがあたりはわりである。平の平の上で少し添ういて書生の顔を見たのが所謂人間というものの見始めである。 千石 堀野妙美

美しい流れる様な作品である。その中でも一字一字の字形にも配慮が行き届き、完成度の高い作品となった。

滋 賀 県 書 道 協 会 賞

林 美 樹

— 般

新しい季節がなぜか来らない
日々で河原の道で自転車に乗る
君を追いかけて。思い出のレコード
と大げさなエピソードを疲れた肩
にぶら下げて、しめめ面をふしそ
うに同じセリフと同じ時、思わず口
にするようなありふれたこの魔法で
つくり上げたよ。誰もさされない
二人だけの国、君の手を離れぬ
ように、大きな力で空に浮かべた
らルラ宇宙の風に乗る。片隅
に捨てられた呼吸をやめない
猫もどこか似ている抱き上げて
無理矢理、頬よせるよ。いつも
の交差点で見上げた丸い窓は
うす汚れてるギリギリの三日月も
僕を見ていた。待るぶせた夢の
ほとけ驚いた君の瞳、そして僕ら
今ここで生まれ変わるよ。
長 浜 林 美樹

楷書でありながら一貫した横の流れが出来上がった。文字の大小もバランス良く字間の配置も絶妙である。

滋 賀 県 書 道 協 会 賞

岡 田 清 香

— 般

ササカンドの近くに、マイムグという都市国家があり、玄奘三蔵の大唐西域記には、彌林国とあるが、新唐書には、米国とある。いわゆる昭武九姓の一国で、イラン系ソグド商人としていられた民族が住み、彼らは中国に住むと「米」を姓としたのである。米菴はシルクロードから中国に移り住んだ家系に生まれた。米国は唐の高宗の時代、大食イスラム帝国にはらばされ、そのときの亡命者も多かったであろう。西域の米国滅亡からすでに三百年以上たつてゐるので、米菴の書や画を、そうした異なる文化伝統がかわり合つたという角度からも論じられるのは、適當であると思われ、にもかわらず、米菴の特異な芸術傾向や奇矯な言動から、彼をそんな角度から論じた衝動にかられる。 陳舜臣著。米菴より 法華堂 岡田清香

漢字と仮名のバランスが良く、一字一字のつながりが美しく行の流れ余白の美しさにつながっている作品である。

滋 賀 県 書 道 協 会 賞

的 場 千 和

— 般

幸甚のかけら、誰かが今日も探り集めて繋ぎとめる。頼りない夜
空の消えそつた星を数え、だうあなたの笑顔になった。あ
広い世界の中私の探りものは二人では見つけれない。見
えないものばかり心閉じて目を閉じて同じ未来を見れる
人。貴方を私はずっと探してた。 的 場 千 和

文章の内容に合ったふんわりした印象のある作品に仕上がっている。字の中の白、余白の工夫が功を奏している。